

## 編集後記

「真実心」第二十九集をお届けします。平成十九年度、新入生対象の学長講話、および宗教講座の計四編が収められています。

皆さんは本学で仏教を学ばれ、宗教講座を聴かれたわけです。現在、世界中で宗教による悲劇がありますが、宗教に関する考えを、今一度見直す時間となったのではないのでしょうか？

では今一度「真実とはすなわち如来（仏）なり。如来（仏）はすなわちこれ真実なり。」を取り上げ「真実心」と「仏教とは何か？」を私達の日々の心の過ごし方と共に、整理して参りましょう。

真実心とは、如来Ⅱ仏、如来心Ⅱ仏心となり、如来心とは「仏心というのは大慈悲なり。無縁の慈悲をもつてもろもろの衆生を摂す。」とあるように、仏心Ⅱ如来心Ⅱ慈悲の心と言う事ができます。

お釈迦様が悟りを開かれ、その直後は人々に分かち合うことをなされなかったが、しばらく後に、人々を救いたいと言うお心から説法をはじめられました。先ほど書き示した様に、仏心Ⅱ如来心Ⅱ慈悲の心Ⅲが成り立つ訳です。

現在、私達が経験したり、自分が体得した、心から学んだこと、経験、Ⅲ人に言ってもどうせ何ものならないⅢと判断し、自分の心の中に、大切な真実の経験をしまいこんでしまうのではないのでしょうか？

最初、お釈迦様が説法を拒んだ理由が、人々が理解するには到底無理だと考え、しかし後に人々を救いたいと言うお心Ⅱ慈悲の心から、説法をはじめられた、とありますように、私達も、心で学んだ事、仏教から学んだ事を躊躇なく、人々に分かち合う心を持ちたいものです。

最後になりましたが、ご講話をお願いしました先生方には、ご多忙の中、原稿にお目通し頂きましたことを厚く御礼申し上げます。

（編集委員会）